新	3372	甲	1696	博士（人間科学）	2003/1/15	松本　聡子	ﾏﾂﾓﾄ ｻﾄｺ	健康科学専攻

2003年1月9日

人間科学研究科委員長　殿

松本　聡子氏　博士学位申請論文審査報告書

松本　聡子氏の学位申請論文を下記の審査委員会は，人間科学研究科の委嘱をうけ審査をしてきましたが，2002年12月11日に審査を終了しましたので，ここにその結果をご報告します．

記

1.　申請者氏名

松本　聡子

2.　論文題名

子育てをめぐる住環境に関する環境心理学的研究　―乳幼児をもつ母親を対象として―

3. 博士論文審査要旨

1. 本論文の主旨

本研究は，子育て中の母親を対象として，子育てをめぐる住環境が母親や子どもに対して及ぼす影響について，環境心理学的な視点から行った調査研究である．本研究では，住環境において母親が感じている不満や困難が，母親の精神的健康状態，子育てに対する意識・感情，そして養育態度に及ぼす影響，さらにこのような母親の状態を介して子どもに及ぼす影響について仮説モデルを設定し，そのモデルを実証的に検討している．

2. 本論文の構成と概要

本論文は合計６章（第１章：序論，第２章：母親をとりまく住環境の実態と評価，第３章：住環境と精神的健康，第４章：住環境と子育てに対する意識，第５章：住環境と養育態度との関係，子どもへの影響の検討，第６章：結論）から構成されている．

第１章では，環境と人間との関係を説明する環境心理学的なモデルを提示し，住環境と人間との関係について関連研究の概説を行っている．そして，Evans et al. (2001)などによる，住環境と子どもの関係における介在要因としての母親の重要性についての指摘について論述している．これをふまえ，子育てをめぐる住環境の状態から母親へ，そして子どもへとつながる連鎖的な関係を表す一連の因果プロセスを，仮説モデルとして想定することの理論的な妥当性が述べられている．その上で，①子育てをめぐる住環境に対する母親の評価を把握する，②住環境が母親の精神的な健康状態，子育てに対する意識，養育態度にどのような影響を及ぼしているのかを検討する，③住環境が母親の状態を介して，子どもへと及んでいるという因果プロセスモデルを仮定し，その妥当性について検討する，④因果プロセスモデルの検討を通して，子育てのしやすい環境について可能な範囲で検討するという本研究の目的が提示されている．

本研究の手法は，質問紙による調査法である．子育てをめぐる住環境，精神的な健康状態，子育てに対する意識，養育態度，そして子どもの行動特徴に関する項目から構成された質問紙を，子育て中の母親を対象にして行っている．

母親や母親が介在要因となって子どもに及ぼす住環境の影響を検討するためには，住環境の実態や母親の住環境に対する評価について把握することが必要となる．そのため，第２章では，子育てをめぐる住環境の実態とその環境に対する母親の評価について検討を行っている．その結果，子育てをめぐる住環境に対する母親の評価は，住居内のスペースに関わる側面，近隣環境の快適性，子育てをする上で重要だと思われる周辺環境の側面などに対して低いことが明らかとなった．また，客観的な指標である住居の属性と主観的な指標である母親自身の住環境に対する評価との関係性については，集合住宅より一戸建て，賃貸より持ち家，狭い住居より広い住居，部屋数が少ない住居より多い住居，低層階より高層階の方が全体的には評価が高いことが示された．

第３章では，子育てをめぐる住環境と母親の精神的な健康状態との関係性を検討した．まず始めに，客観的な指標である住居の属性と母親の精神的な健康状態との関連性についての検討が行われた．その結果，住居の属性による母親の精神的な健康状態の違いは，本研究のデータでは見られなかった．次に，主観的な指標である母親の住環境に対する評価と精神的な健康状態の関係について検討が行われた．その結果，子育てをめぐる住環境に対する評価の低さと母親の精神的な健康状態の悪さは，正の相関関係にあることが示された．さらに，重回帰分析により母親の精神的な健康状態に対して影響を及ぼしている住環境の側面について検討している．その結果，住居内のスペースに関わる問題，隣近所への音漏れに対する気遣い，隣人関係，地域の子育てサポートの体制といった側面に不満を感じているほど，母親の精神的な健康状態は悪くなることが示された．

精神的な健康状態は，母親の子育てに対する意識に影響を及ぼしていることが推測される．そこで，第４章では，住環境から精神的健康状態，そして子育てに対する意識という因果関係を想定し，その妥当性についての検討がなされた．その結果，住環境に対する不満や困難が増大すると，母親の精神的な健康状態は低下し，ひいては子育てに対する否定的な意識が強くなるという，因果関係が確認された．また，「音漏れに対して隣近所に気を遣う」という側面は，精神的な健康

状態を介さず，子育てに対する否定的な意識に直接効果を持っていることが示された．

第５章では，第４章までにおいて検討してきた，子育てをめぐる住環境が母親の精神的健康度に影響を及ぼし，さらに子育てに対する否定的な意識へと続いていく連鎖的な関係が，次の段階である，母親の子どもに対する態度，そして子どもにまで続いていくモデルの妥当性についての検討が行われた．まず始めに，これまでのプロセスに母親の子どもに対する養育態度を最終従属変数として加えたモデルが検討された．その結果，住環境の影響は母親の精神的健康度や子育てに対する否定的な意識を介して，母親の子どもに対する養育態度に影響を及ぼしていることが明らかとなった．また，住居周辺環境要因（治安，交通面での安全性，駅への近さ）は，直接養育態度に影響を及ぼしていることが示された．次に，子どもの行動特徴（衝動的・非統制的な行動特徴と依存的な行動特徴）を最終従属変数とし，住環境の影響が母親の状態を介して，子どもに及ぶという因果プロセスモデルの検証が行われた．その結果，①衝動的・非統制的な行動特徴については，住環境に対する不満や困難によって，母親の精神的な健康状態が低下し，子育てに対する否定的な意識が強くなり，養育態度に対して好ましくない影響を及ぼすというプロセスが，子どもが衝動的・非統制的な行動を示す一要因となる，②依存的な行動特徴は，養育態度を介さず，子育てに対する否定的な意識から影響を受けている，ということが示された．以上のように，子どもの行動特徴によって異なる部分もあるが，基本的なプロセスについては，仮定した因果プロセス，すなわち，住環境の影響が母親を介在として子どもに及んでいるというプロセスの妥当性が確認された．

最後に第６章において，本研究の総合的な考察を行い，得られた知見をまとめている．また，本研究の問題点についても整理している．さらに，今後の展望として，子どもの発達や母親のライフサイクルの変化を詳細に検討するため，縦断的な調査を行う必要性などについても指摘している．

3.　本論文の評価

本論文は，少子化対策などの視点から注目されてきている子育て環境をテーマとし，その中でも特に，住環境という重要な側面に焦点をあてて研究を行っている．その現代社会の抱える問題に則した視点は評価に値する．これまで経験的あるいは仮説的にしか指摘されてこなかった，住環境の影響が母親の精神的な健康状態や子育てに対する意識，さらには養育態度に及ぶというプロセスの存在を証明している．この因果プロセスが子どもの発達にまで関わっている可能性を示唆しており，住環境と母親，住環境と子どもという一対一の関係性にとどまらず，住環境・母親・子どもに関する包括的な関連モデルを提唱している．このことは，親子関係や子どもの発達に及ぼす物理的環境の重要性を指摘するものであり，環境心理学的な意義があるだけでなく，発達心理学的にも重要な知見を示している．その結果，子育てのしやすい環境の条件をいくつか抽出することに成功しており，今後のより良い子育て環境の整備に役立つ知見を提供することができた．また，仮説の検証にあたっては，数回にわたって実際に子育てをしている多数の親を対象にデータを収集し，適切な統計手法を用いて，洗練されたモデルを提示しており，研究手法の側面においても評価できるものである．

本論文の問題点としては，まずサンプリングの問題が挙げられる．本研究が行われた地域は比較的都市部であり，妥当性が示されたモデルについても，このような限られたコンテクストの中で主張されるべきであろう．次に，住環境と母親，そして子どもとの関係性を単方向の因果連鎖と捉えており，双方向の関係を想定したモデルの検証を行っていない点が挙げられる．さらに，住環境に関する測度についても，より多側面から住環境を捉えるためにも，精緻化を図る必要性がある．これらの点については，第６章ですでに述べられており，今後の研究課題として挙げることができる．研究方法においても，よりモデルの妥当性を強固にするためには，観察や実態調査などによる質問紙を越えたより実態に迫るアプローチが必要である．

このように，いくつかの問題点を指摘できるものの，子育てをめぐる住環境が母親及び子どもに対して及ぼす影響を，限られた範囲のデータとは言え，綿密な調査データの解析手法を駆使し，周到な準備により引き出された仮説モデルに基づいて検証することに成功している．

以上の審査結果により，本論文審査委員会は，本論文を，博士（人間科学）の学位を授与する

に相当すると判断した.

以上

4. 松本　聡子　氏　博士学位申請論文審査委員会

主任審査員	早稲田大学	教授	博士（人間科学）	（大阪大学）	野嶋　栄一郎	
審査委員	早稲田大学	教授	博士（人間科学）	（早稲田大学）	嵯峨座　晴夫	
審査委員	早稲田大学	教授	博士（人間科学）	（早稲田大学）	齋藤　美穂	
審査委員	早稲田大学	名誉教授	文学博士	（早稲田大学）	相馬　一郎	